

天声人語

何年か前、出張先の米ラスベガスでカジノをのぞいた。ものは試しとバカラ台に座って驚いた。単純なトランプゲームながら一度の賭け金が最低25ドル（約2800円）もする。20分もしないうちに200ドル（約2万3千円）を失った。怖くなって降りたが、頭に血がのぼる感覚はいまも残る▼カジノ解禁法案が唐突に衆院で審議入りした。推し進めるのは国際観光産業振興議員連盟（細田博之会長）である。かつて議連の最高顧問だった安倍晋三首相は2年前、シンガポールでカジノを視察して「日本の成長戦略の目玉になる」と語った▼カジノで106億円もの大金を失った井川意高（いかわいこう）・大王製紙元会長を思い出す。首相が視察した当のカジノに通い、バカラにのめりこんだ。自著「熔ける」で賭博依存症特有の心理を赤裸々につづった▼「まだまだ。もっとだ。もっと勝てるに決まっている」。脳が叫ぶ。立て続けに勝つマジック・モーメント（魔法の時間）が金銭感覚を狂わせる。「負ける。さらに借りる。さらに大きく負ける」。子会社7社に資金を送らせて逮捕され、懲役4年の刑が確定した▼議連は「経済効果が高い」と訴える。だがカジノの本質とは、人間の弱みにつけ込み、理性を失わせることにあると思う。そんな毒性に対する議論がまったく乏しい▼「現世にポツカリ口を開けた無間地獄」。井川氏はカジノの底に堕ちた恐怖をそう表現した。人を簡単に狂わせる魔力が、すでに政府与党をむしばんでいるのだろうか。